

実験計画書

実験名称(例)

表情と声感情のギャップの検出

実験目的(何を調べるか・システムの何の有効性を調べるか)

他者の感情を判断するとき、音声感情と顔表情のどちらを優先するか検証することによりエージェントの感情判断モデルを作成する。

信頼度、安心度

仮説

H1: 声よりも表情の方が感情を作りやすいといわれている(=嘘をつけやすい)ので声の方が優先される。

H2:

H3:

...

Hn:

実験設定

実験条件:(例)

要因A:

要因B:

(例)2要因合計6条件の被験者内実験計画

A1B1:

A1B2:

A1B3:

A2B1:

A2B2:

A2B3:

A3B1:

A3B2:

A3B3:

全(n×m)〇〇条件 実験参加者〇〇名(順序交差)

実験条件順番は, 例えば:

patterns order of conditions

pattern 1 1 2 9 3 8 4 7 5 6

pattern 2 2 3 1 4 9 5 8 6 7

pattern 3 3 4 2 5 1 6 9 7 8

pattern 4 4 5 3 6 2 7 1 8 9

pattern 5 5 6 4 7 3 8 2 9 1

pattern 6 6 7 5 8 4 9 3 1 2

pattern 7 7 8 6 9 5 1 4 2 3

pattern 8 8 9 7 1 6 2 5 3 4

pattern 9 9 1 8 2 7 3 6 4 5

pattern 10 9 8 1 7 2 6 3 5 4

pattern 11 1 9 2 8 3 7 4 6 5
pattern 12 2 1 3 9 4 8 5 7 6
pattern 13 3 2 4 1 5 9 6 8 7
pattern 14 4 3 5 2 6 1 7 9 8
pattern 15 5 4 6 3 7 2 8 1 9

質問項目：(例)

Q1-Q4〇〇感・性

Q5-Q13〇〇感・性

Q14-Q15〇〇感・性

Q16-Q17〇〇感・性

Q1.嘘をついているように感じた

Q2.自分と親しい関係性に感じた

Q3.気を許せそう

Q4.恐怖を感じた

Q5.機械的に見えた

Q6.一緒にいると安心しそう

Q7.人間味がある

Q8.不信感を覚えた

Q9.

Q10.

Q11.顔と声の感情が一致していた

Q12.

Q13.

Q14.

Q15.

Q16.

Q17.

余剰変数の統制

>環境:

例えば, 事前に適合的温度を控える)

>実験する場所:

>実験材料(例)

パソコン(型番)

単焦点プロジェクタ(型番)

カメラ

机、椅子

セリフ用紙

実験手続き

教示内容:

(例)

このように一回練習してもらい、実験を始める。実験が始まると、口頭指示をし、様々な条件を被験者に表現する。

実験条件に応じて手動で空気砲を利用し、触覚を与える。

最後に、アンケートに回答してもらう。